

# みずくらしいど

校長 加藤雅弘

## 主体的に学習に取り組む態度 ご家庭で育むには

明日から夏休みです。「主体的に」と言われても不安に思っている保護者の方も多いかと存じます。そこで「主体的に学習に取り組む態度を育むポイント」について、学習心理学の面から分かっていることに沿っていくつかお示しします。お困りになった時などに参考にいただければ幸いです。

### 安心な環境

○**物理的側面**：お子さんが安心して学習できる場所が確保されていることは大切な条件です。また、その時間は学習に集中できることが望ましいです。年下のお子さんの面倒を見る立場の場合、宿題を汚されたり破かれたりしてしまうことのないように、保護者の方から弟さんや妹さんにお伝えいただきたくお願い申し上げます。

○**精神的側面**：特に下学年の場合、まだ自律心が発達していないことが多いので、自分一人では進められないこともあります。進められなかった日、後で怒られないか不安が続くことでしょう。もし、その日の課題ができていなかった時も、頭ごなしに叱ることにならないようお願いしたいです。「どうしてできなかったのかな?」「実は妹の面倒をずっとみないといけない状態で…」ということもあります。この時に保護者の方が「ちゃんと自分の立場を理解してくれる」ということが安心感を生みます。

### 知的好奇心を刺激する環境

○読みたい本が選べる。

○夢中になれるものに取り組む時間や環境がある。

○自由研究に向けて相談できる相手や調べる環境がある。(学校HPに資料有。図書館に通う等)

### やる気の出ない時

○**促す言葉がけ**も：低学年の場合、自分から学習を始めることに苦戦することが考えられます。そんな時は「何時から始める予定だっけ?」「やった方がいいんじゃない」など優しい言葉がけが有効です。

○**褒め言葉**で：少しでもできたら、大げさと感じても「●●さん、やればできるじゃない」「ここの学習の仕方、とてもいいね」「昨日より、文字が丁寧になったね」など、子供がやる気になる褒め言葉をお願いします。他者との比較でなく、個人内の成長の視点が望ましいです。

### お手伝いで自己有用感を

○**人の役に立つ役割**を：学習の動機付けとして「誰かの役に立つ」(自己有用感)があります。この傾向が高いお子さんは、授業がない期間自己有用感を味わうことができにくくなります。そこで家族集団の中で「お手伝い」が、学習意欲につながる可能性があります。何か、そういう役割を与えてあげていただきたいと思います。

○**役に立った実感**を：お子さんが実際にお手伝いを実行できたら、「●●さんのおかげで、助かった」できれば「どのように助かった」のか具体的に触れていただけると、さらに効果的です。

長い休みでご不安やご苦勞もおありのことと思います。サマースクール等がある日は、年休・出張以外の多くの教職員は出勤しております。何かありましたらお問い合わせください。